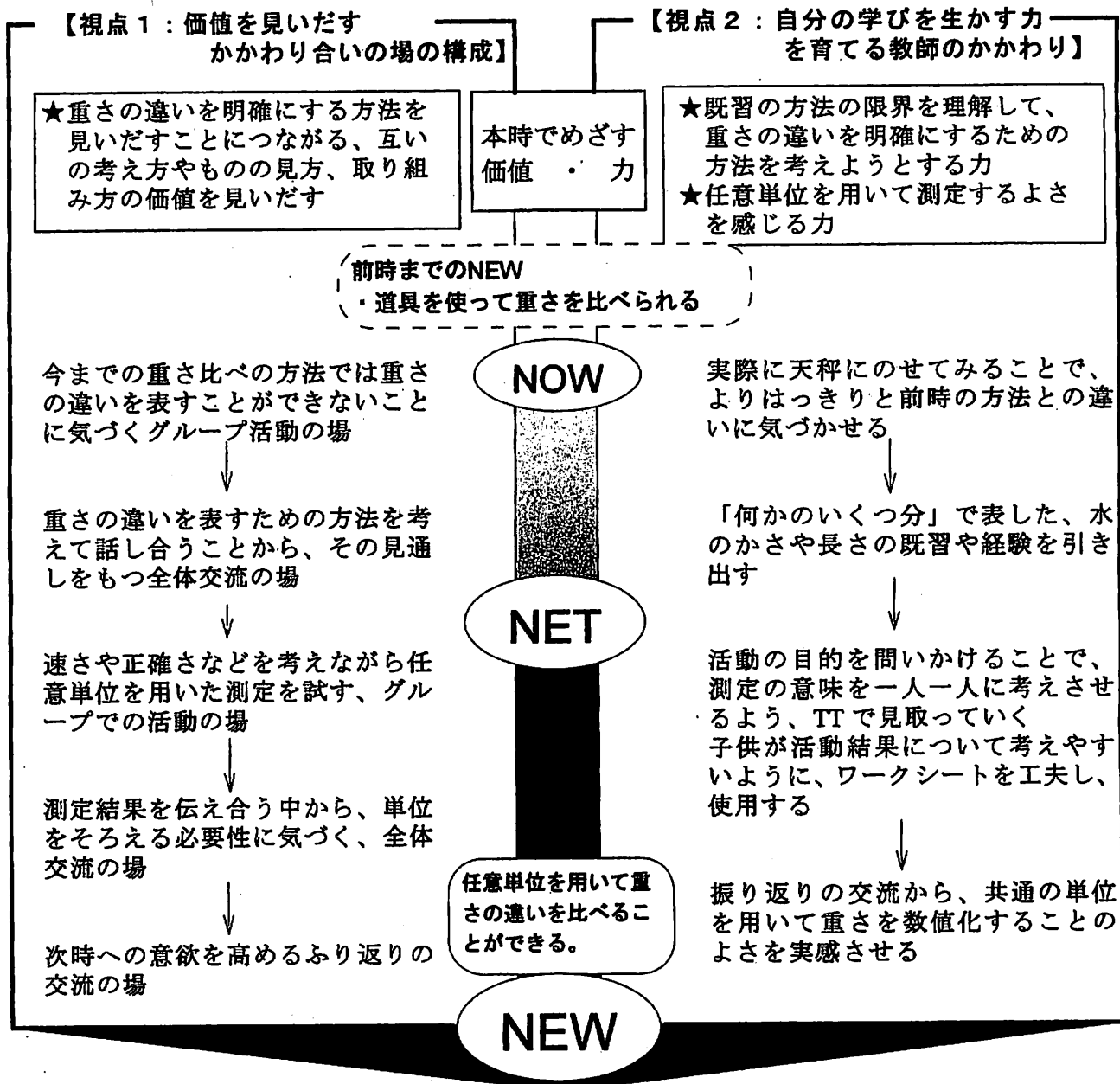


1. 本時の学習

(1) 視点にかかわる本時の主張



キラリが響き合う子供の姿

重さの違いを表すために「何かのいくつ分」に置き換える活動から気づいたことを交流し、任意単位のよさを感じる子供。

(2) 本時の目標

- ・進んで測定活動を行い、重さの違いを「単位とするもののいくつ分」という表し方で表そうとする。【関心・意欲・態度】
  - ・任意単位を用いて重さの違いを数値化することのよさを考えることができる。【数学的な考え方】
- ☆重さの違いを「単位とするもののいくつ分」で表す活動から考えたことについて友達と交流し、重さを任意単位で表すことのよさに気づく。【かかわり合い】

(3) 本時の展開 ( 10時間扱い 本時 3/10 )

キラリが響き合う学習活動と手だて

砂場ですくった砂の重さ比べ (手で比較→道具を使って比較) の活動から…  
 ・道具を使うと、どちらが重いか目に見えるようにできたよ。

視点1: 価値を見いだすかかわり合いの場の構成

○本時の問題の把握

砂の重さくらべ2回戦。  
 すくった砂の重さがボールと「ぴったりランキング」を決めよう

視点2: 自分の学びを生かす力を育てる教師のかかわり

〈問題に気づくグループ活動の場〉

・「ぴったり」はてんびんが合うとき。 ・でも、2位3位…は? あれ?

〈前時と本時の活動のちがいに気づかせる〉

「ぴったり」とのちがいは、どうしたらくらべられるかな?

○追究の見通し

〈方法の見通しをもつ全体交流の場〉

- ・ぴったりまであとどれだけかは、測られそう。
- ・ボールとつり合うように、何かをのせたらいいね。
- ・何をどれだけのをのせたかを、くらべようよ。

〈既習や経験を引き出す〉

「何かのいくつ分」を使ってくらべよう!

○課題の追究

〈任意単位を用いた測定を試すグループ活動の場〉

てんびんで… ボールと比較  
 「ぴったり」との違いは…  
 ・何が? ・どれだけ?

〈ワークシートに活動結果を記入させる〉

〈子供たちに活動の目的を問いかけ、考えを見とっていく〉

結果を友達と比較  
 ・のせたものが違う人とのくらべ方は…?

〈測定の結果から、単位をそろえる必要性に気づく全体交流の場〉

○全体交流のせ方

- ・同じ物を少しずつのせて。 くらべ方
- ・グループで同じ物をもとに。

「何かのいくつ分」にすると、ちがいを数でくらべられるね。

〈次時への意欲を高めるふり返りの場〉

○学習の振り返り

- ・「何かのいくつ分」を使って、びみょうな重さのちがいをくらべられたよ。
- ・みんなが同じ「何かのいくつ分に」すると一度にくらべられるね。

〈振り返りを紹介して、数学的な価値や取り組みのよさに気づかせる〉

## 2. 単元について

### (1) キラリが響き合う授業に向かって

重さに対する子どもたちの知識と実際のギャップから

3年生では、「水のかさ」「長い長さ」そして「重さ」と、量と測定  
の学習が続く。どれも生活体験に密接にかかわっており、本単元でも、  
子どもたちは、グラムやキログラムなどの重さの単位についてはよく  
知っているし、それを測る計器についても知っていると考えられる。

しかしながら、水のかさや長さと同じ、重さはそれ自体を目で見る  
ことはできない。目で見て大きさや質感から思い描いた重さと、実際  
に手で持って感じた重さは違う場合が多い。

そこで本単元では、このような感覚のずれを子供たちに認識させる  
ことで、意欲化を図る。そして、ずれから生まれた問いについて実際に  
体感したり検証したりと主体的に活動していくことにより、キラリ  
が響き合う授業をめざす。

### 視点1：価値を見いだすかかわり合いの場の構成

見通しの交流を大切に

本単元において子どもたちは、かかわり合いを通して一人一人のも  
つ方法や考え方のよさに触れることはもちろん、互いの経験を交流し  
てみんなで共有することにより一人一人の重さへの感覚が豊かになっ  
ていくと考えている。

そのために、本単元では特に3つの場のつながりを次のようにとら  
え、大切にしている。

#### ①見通しの交流の場

本単元では、重さをくらべたり測ったりするにあたり、その方法を考え、  
実際にやって確かめる活動をする場面がある。その時、「自分はこれから何を  
どうやって確かめるのか」という見通しを明確にもつことで、活動から得る  
ものが大きくなると考える。

#### ②小交流の場

自分の考えた方法を友達と交流することにより、考えに自信をもったり、  
類似点や相違点を見つけて新たな考えに結びつけたりすることをねらってい  
る。

#### ③全体交流の場

それぞれのグループで活動したことにより生まれた解決方法の工夫を引き出  
しながら、重さに対する考えを深めていきたい。

### 【視点2：自分の学びを生かす力を育てる教師のかかわり】

本単元では学習の中で、次のような学びを生かす姿を期待している。

#### ①学習に対し、自分なりの見通しをもつ子

そのために、ノートや掲示物を貼り所に、既習を生かす習慣や  
既習を生かせる環境をつくる。

#### ②学びを実感できる子

そのために、全体交流で得た新たな価値を、活動して実感する  
場面をつくる。

また、現在、どんな学びの姿がよいのか、という見方を育てている  
ところであり、本単元でも、一人一人の学びのよさを見つけて認める  
ために、TTですすめる。

TTでは、1時間ごとにそれぞれが見取りの観点を持ってかかわること  
と、単元の1次、2次…と、次ごとにかかわり方にねらいをもつこ  
とで、多角的な視点で子どもたちを見取り、指導に生かしたい。

見取りの観点を明確にしたかかわりを

(2) 単元の目標

- (関心・意欲・態度) 身のまわりにあるものの重さに関心を持ち、進んで測定しようとする。
- (数学的な考え方) 重さを、任意単位や普遍単位を用いて数値化することのよさがわかる。
- (表現・処理) 「1 g」「1 kg」などの単位を基にしてそのいくつ分で表したり、目的に応じて単位や計器を選択し、正しく測定したりすることができる。
- (知識・理解) 重さの意味や単位について理解するとともに、重さの大きさについての量感を豊かにすることができる。

(3) 指導計画 ( 10時間扱い 本時 3 / 10 )

